



## “いざ”という時、安心の配置薬



富山十萬石の二代目藩主・前田正甫は、質実剛健を尊び自らも、くすりの調合を行うという名君でした。元禄3年（1690年）正甫公が参勤で江戸城に登城したおり、福島岩代三春城主秋田河内守が腹痛を起こし、苦しむのを見て、印籠から「反魂丹（はんごんたん）」を取り出して飲ませたところ、たちまち平癒しました。

この光景を目の当たりにした諸国の藩主たちは、その薬効に驚き、各自の領内で「反魂丹」を売り広めてくれるよう正甫公に頼みました。

この事件が「おきぐすり」（配置販売業）の発祥とされています。

「一代限りと思うな。孫の代まで続けるという心がけで、真心をこめて対応し、誠を尽くそう」くすり売りの間で、親から子へ、子から孫へ、代々語り継がれてきた言葉ですが、これを実践するために打ち出されたのが「信用三本柱」です。三本柱とは「商いの信用」、「くすりの信用」、そしてもうひとつが「人の信用」です。

なかでも「人の信用」はもっとも重視されました。顧客の悩み相談に乗って、適切なアドバイスを行ったり、励ましたりすることで信頼関係が作られています。

「くすりを売るのではなく、人間を売れ。顧客は人間を見てくすりの信用、イメージをつくる」という考え方が今も続いています。

家庭や会社でいざという時、配置薬があると安心ですね。今はインフルエンザも流行していて薬が不足しています。特に今は、せき止めや去痰（きょたん）薬、解熱薬などが入荷待ちの状態だそうです。

配置薬のシステムは、

**STEP1** はじめに、医薬品をご家庭や会社にお届けします。

**STEP2** 必要な時にお使いいただきます。


**STEP3** 2～3ヶ月に1度、ご家庭を訪問し、お使いいただいた分の医薬品の代金を集金すると同時に、新しい薬を補充します。

**STEP4** 薬をお使いいただくまでは、料金は一切発生しません。薬箱の代金や保証金なども不要です。未使用のまま配置期限が近付いた薬は無料で交換となります。

宝薬品工業では漢方薬を中心とした「かぜ薬、胃腸薬、痛み止め、下痢・食あたりの薬、はりぐすり、絆創膏、栄養ドリンク」などよく使う薬を配置して、体調にあわせてお薬の相談にも乗ってくれます。いざという時、置き薬という安心を。

宝薬品工業株式会社

福島県郡山市富田町字不動前 48-5

 0120-455-147

宝薬品工業

検索



FROM-ZERO 通信は弊社のお取引先の皆様に毎月配布させていただいている情報誌です。



株式会社 オフィスゼロ

〒963-0201 福島県郡山市大槻町字下町128

<http://www.office-0.co.jp/>

TEL 024-962-4709 FAX 024-962-4710



Web サイト ブログ